



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2002-2003

6月20日 ガバナー月信

No.13

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760 2003年6月20日発行



本丸御殿玄関杉戸絵

ガバナーメッセージ	2	西尾RC創立45周年	13
ローターアクト地区年次大会報告	3	国際奉仕委員長会議	13
ライラセミナーを終えて	4	新世代委員長会議	14
財団学友会総会及び新奨学生壮行会	6	春の野球大会	14
ロータリー館建設協賛コンサート	7	米山特別寄付報告	15
ロータリー財団奨学生レポート No.2	8	ポールハリスフェロー	15
最終ガバナー補佐会議を終えて	12		

国際ロータリー第2760地区 ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内

TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023 E-mail : governor02-03@rotary2760.org

Governor Message

ガバナーメッセージ

ガバナー 岡部 快圓



〈例会の出席〉

会長さん、幹事さん、
会員のみなさまお元気
ですか、我々の年度も
残すところ
一ヶ月となりました。
本年度多くのロータリ
アンの友情に支えら
れ、ガバナーの重責を
果たすことができこ

ろより厚く御礼申し上げます。

今後は一会員として奉仕の理想に向かって邁進努力してゆく所存ですので宜しくお願いいたします。今回はロータリーの根幹、例会の出席について考えてみたいと思います。

連続四回欠席すると自動的に会員身分を失うという規定は、1905年2月23日、ロータリーが発足してから僅か三回目の例会で決められたものです。メークアップ制度ができたのは、ずっと後の1922年であり、高速交通機関がない時代に、アメリカ全土に僅かに点在する他クラブでメークアップすることは、物理的に不可能であり、出席はホーム・クラブ出席を意味していたに違いありません。例会出席は、友情の証でもあります。四回も続けて休むような薄情な人から、真の友情を期待することは不可能という論理から、即退会という結論がでたのです。

先ず、もしも、例会を休んだとしたら、どのような弊害が生じるかを考えてみましょう。例会にはその地域の凡ゆる職業の横断面を代表する会員が出席していますから、あなたが休むことによって、他の会員は、あなたの職業に関する情報が得られなくなると同時に、あなたもあなた以外のあらゆる業種の情報が得られなくなることになります。従って、例会出席は特権であると同時に、極めて重要な義務でもあり、仕事に支障をきたさない範囲で出席するという理屈は通りません。むしろ安心して例会に出席できるように環境を整備すべきであり、ロータリアンにはそのように配慮できる裁量権があるはずなのです。義務として例会に出席して、そこで生じた仕事のタイムロスを憂うのではなく、特権として出席した例会で得られるものの方が、あな

たやあなたの会社やあなたの業界にとって遥かに大きいということを自覚しなければなりません。

ロータリーの奉仕哲学は He profits most who serves best と Service above self に示されるように、常に葛藤している利己の心と利他の心をたくみに調和させる哲学です。ロータリークラブが職業人の集団である以上、会員の事業の安定と発展なしにはロータリー運動を維持することはできません。ロータリアンの事業の安定化を図る方策は、物質的互惠から精神的互惠を経て、職業奉仕の実践に移行し現在に至りました。奉仕哲学を探究しつつ、永年のロータリー活動を通じて蓄積された膨大な情報こそ、ロータリアンの事業を発展させ、企業経営を健全化に導く貴重な情報ともいえましょう。

善意に満ちたロータリアンが毎週1回集う例会は、あらゆる職業情報の交換の場でもあります。一人一業種の原則で同業者は排除されていますから、どんな深刻な問題でも機密事項でも、他に漏洩したり本人の不利になることなく、皆が真剣に相談相手になってくれるはずで。その前提になるものこそ、ロータリーの友情なのです。

ロータリー哲学を構築する理論と情報と教育的効果を疑ってはなりません。不況の時にこそ、ロータリー運動の真価が表われ、真のロータリアンと単なるロータリークラブの会員との差が証明されるのです。かつて、零細企業主だったロータリアンが、一様にその事業を隆盛に導いたのは、決して物質的相互扶助の効果のみではなく、1930年代の大恐慌のとき、シカゴ・クラブのロータリアンの企業が、一件の倒産もしなかったことも、これを如実に証明しているからです。

例会で学んだ奉仕の理念を、自分の職場に持帰ると共に、自分が属する業界に広め、地域社会全体の職業モラルを高めることが職業奉仕だと考えれば、あなたが例会を休むことが、あなたはもちろんのこと会員全員に、さらに、地域社会のすべてに、大きな損失を与えることが分かります。

定年も卒業もありません。ロータリー運動を機会に始められた人生の真理の探究は、より高い次元へ向って、その内容の質を高めながら、終生続けられなければなりません。

メークアップ制度ができたのは、R I の発足に伴ってロータリーの定款や細則が抜本的に改正された1922年のことです。

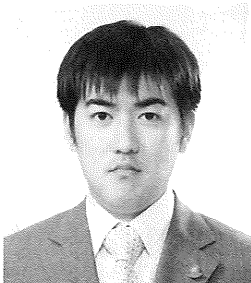
ローターアクト第13回地区年次大会報告

日時：2003年5月10日(土)／11日(日)

場所：真清田神社 参集殿／尾西グリーンプラザ

第2760地区ローターアクト

地区代表 江崎正和



今年度の国際ロータリー第2760地区ローターアクト第13回地区年次大会を5月10日(土)に前夜祭を11日(日)に本大会を一宮ローターアクトクラブのホストで開催いたしました。

一宮市真清田神社参集殿で行った前夜祭では、地区内9クラブと交流の深い国際ロータリー第2600地区(長野)、第2630地区(岐阜・三重)のローターアクターで“ハモリ♪(音符)”大会を行いました。まじめに歌をはもるクラブやみんなで合唱するクラブなど各クラブが個性を出しあい、また、豊島徳三ガバナーエレクトも参加し、ローターアクターの仮装用の衣装を着て総評をしていただくなど、とても印象的な前夜祭となりました。

11日の本大会は、尾西グリーンプラザで行いました。当日は、雨にも関わらず一宮市長、尾西市長をはじめ、多数のロータリー、ローターアクターの皆さんに参加していただきました。地区事業「ローターアクトを知ってもらおう!」をテーマに



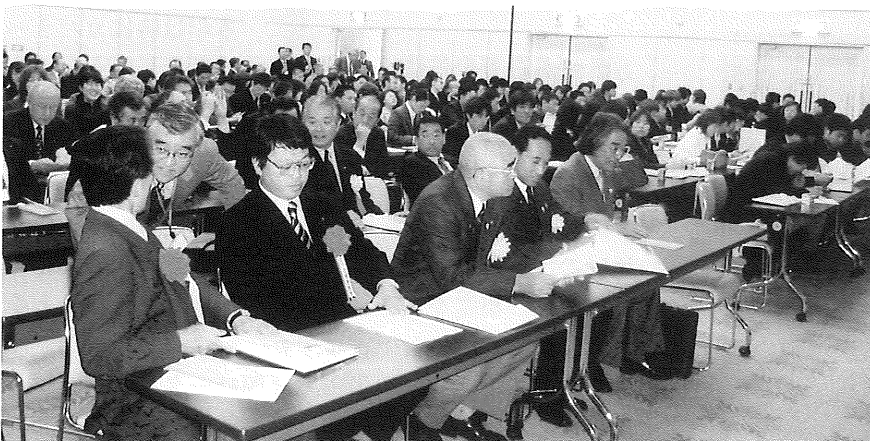
掲げた1年間の各クラブ活動、地区行事、各クラブの活動内容などの報告を行いました。記念講演では、サイ

バーバイオリニストデュオの“トランスクイロ”を迎え、私達ローターアクターと同じ世代の2人がどのような考えを持ちながら音楽活動をしているのかなどをトーク形式で話していただきました。また、演奏もしていただき、彼らの演奏の素晴らしさに大変盛り上がり、当初予定になかったアンコールまでしていただきました。クラブ会長と幹事がクラブ内ではがんば



たアクターを称えるクラブ会長・幹事賞、永年表彰、年齢退会者の卒業式など各賞の表彰が行われ、最優秀クラブ賞には岡崎ローターアクトクラブ、モストフェローシップ賞には、名古屋熱田RACの市川岳正さんを選出しました。

最後になりましたが、この地区年次大会を開催するにあたり、両日参加していただいた岡部快園ガバナー、伊藤宏地区幹事をはじめ地区役員のみなさま、ホストクラブの提唱4ロータリークラブのみならず多数のロータリアンのみなさまにご参加して頂きありがとうございました。次年度もローターアクトクラブのご理解、ご支援、宜しく願います。



第11回

ライラセミナー

を終えて

日時：平成15年5月17日～18日 会場：愛知県労働者研修センター

地区ライラ委員会 委員長 松井善則

ライラは〈LYLA〉
(Rotary Youth
Leadership Awards)
若い人々とロータリー
クラブ会員が共に時間
を過ごし、指導力、奉
仕の精神を伝えて、友
愛を深めることです。
ライラは若い人々とロー
タリアンを参加させ
る地区のプロジェクト
であり、若い人の指導
力と善良な市民精神と
いう、資質を伸ばすこ
とであり、選ばれた指
導者の資質を持つ者に
訓練と経験を積ませ、
又資質の発展と向上を
奨励し、援助するため
に、開催されるもので
あり、参加者が自分達
の地域社会に奉仕する
ための技術・知識ある
いは人間関係を、限ら
れた時間の中で学ぶも



のであります。

その目的は

1) ロータリーが青
少年を尊重し、且つ青
少年に関心を抱いてい
ることを一層明らかに
すること。

2) 選考した青少年
指導者及び、その資質
のある人に、実地訓練
を体験させ、責任ある
有能なボランティア青
少年指導者になる方法
を身につけるよう激
励、援助する。

3) 青少年による青
少年への、耐えざる力
強い指導を奨励するこ
と。

4) 青少年指導者と
して、地域社会に尽く
してくれる、多数の青
少年の優れた資質を公
に表彰することであり
ます。

本年は特にガバナー

方針である青少年に「慈愛の種を播きましょう」の方
針にそり、5月17日(土)～18日(日)の両日を使い、
瀬戸市の愛知県労働者研修センター(サンパレア瀬戸)
にて開催しました。

岡部ガバナー、伊藤地区幹事、堀江副幹事をはじめ、
地区の役員、ローターアクト、ライラ友の会の皆様方
の多数のご出席を頂き、盛大に開催されましたことを
心より深く感謝申し上げます。

またホストクラブの名古屋瑞穂ロータリークラブの
大和哲郎実行委員長、会長、幹事、実行委員、事務局

員の皆様方が一致団結し、骨身を惜しまず、黒子に徹し、全力投球していただきましたことは私の誇りとするものです。有り難うございました。

今回の第11回セミナーは第1回から第10回までのセ



ミナーから脱皮して、先輩方が育てていただいた「ライラ友の会」の諸君にセミナーの内容から、スケジュールまでを、立案、企画、実行してもらい友の会の手作りのセミナー

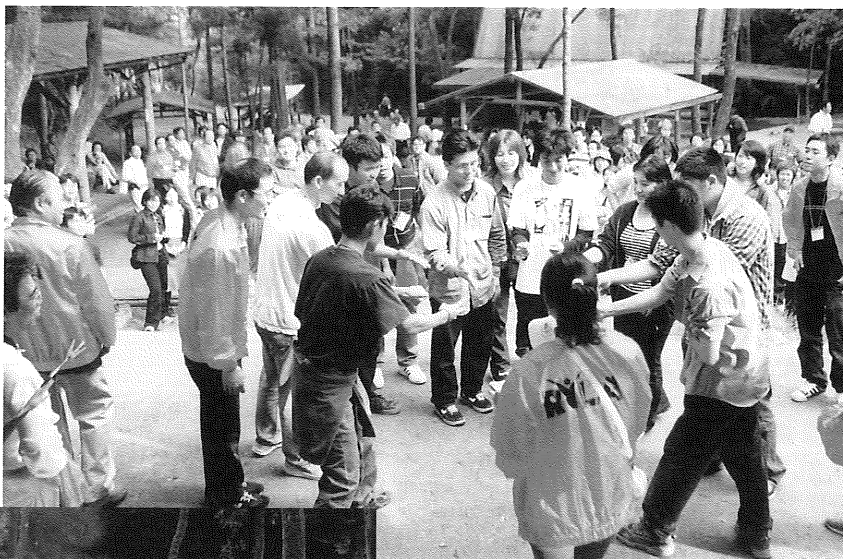
が開催されたものと確信しております。ご参加いただいた方にはご理解いただけたと思います。

総参加人数は300余名になり、盛大に開催されました。17日は午後1時から開校式を行い、1時30分より「こわい親父、やさしいお母さん」のテーマで風間健講師に講演をしていただき、2時30分より、受講生と講師による質疑応答を、1時間ほどしていただきました。

4時より健康のため、ほとんど全員の参加者が坂道を30分ほど歩いてバ

ーベキュー会場に行き、各分科会ごとに席を作り、素晴らしい楽団のBGMの流れる中で、バーベキューに舌鼓を打ってもらい、経験のため各人が串に刺し、焼いて、食べる方式を採用しました。

その同じ席で、7時より第1回の分科



会を開き、その間の行動は各分科会ごとにアドバイザー（ロータリアン1名）、サブアドバイザー（ローターアクト1名）は前もって決め、リーダー1名、サブリーダー1名（参加者の互選）にて分科会を掌握してもらい、8時頃より、又30分ほど山道を登り、センターへ帰館しました。

その後も「友愛の広場」はセンター消灯の時まで開店し、各分科会ごとに部屋に集まり、夜遅くまで、討議をしていたと聞きました。

翌日8時より、第2回の分科会です。10時より全員が講堂に集まり、分科会ごとに成果の発表です。8分



科会中3分科会を（ガバナー賞、ライラ賞、ホストクラブ賞）表彰し、11時20分より、閉講式を行いました。

受講生は修練を積み、ロータリアンは若さを吸収し、有意義な1泊2日を過ごさせて頂き感謝しています。特に地区ライラ委員会の皆様にはご協力、ご指導併せて

お礼申し上げます。

参加者全員の皆様に心よりお礼申し上げます。ライラセミナーが今後ますます参加受講生の友好と感動を味わうことができ、無限に発展することを祈念するものであります。

財団学友会

日 時 2003年5月11日(日)
会 場 ホテルキャッスルプラザ

第19回総会および新奨学生壮行会

地区財団学友委員会 委員長 鈴木 薫

総会は豊島徳三ガバナーエレクト、野村重彦財団カウンセラーや地区財団委員会役員の紹介などがあり、財団学友会会員および新奨学生が参加して開催された。

まず、財団学友会の古橋武之代表幹事を議長に選出し、審議に入り2002年度事業および決算報告、2003年度幹事選出、事業計画、予算案すべて原案通り承認された。続いて、古橋代表幹事の挨拶があり、学友数の推移、奨学生の概要および最近の動向の説明があった。終わりに、奨学生の皆さんが留学を終えて、帰国後は新たに留学する奨学生のためのガイダンスや、オリエンテーションに積極的に参加し、経験談やアドバイスを送って頂きたい。そして、奨学生としての経験や国際親善の促進に努めたことをクラブの例会に出席してロータリアンに伝達して下さいと激励した。

次に、豊島ガバナーエレクトは挨拶で、今年度アメリカ、フランスおよびイングランドへ留学する国際親善奨学生への励ましと、国際親善大使としての使命を果たすことを要望された。留学先では学ぶことと同時に、異国で「生活する」ことを充分身に付けて下さい。現地で慣れてきたときが危険でありますので、不注意から身体を壊さないことに注意すること。ホストクラブの例会に積極的に出席し、ロータリアンとの交流を図り、風俗や文化を十分に理解することなど希望し、留学を終え元気に帰国して下さい。将来、皆さんがロータリーの会員になられることを期待しますと挨拶されました。以上で財団学友会総会を終わり、新奨学生の壮行会の会場へと移動した。

壮行会は石川財団委員長の壮行のことばで始まり、1. 健康に注意する。2. 相手国の風俗、習慣、文化を理解する。3. 国際親善を行い、世界平和に働いて欲しい。4. 留学生活ではロマンを追求し、感動を覚える。と激励のことばを奨学生に送った。

野村財団カウンセラーの乾杯の音頭で、なごやかな雰囲気の中で懇親会が始まり、先輩財団学友それぞれの貴重な経験談や現況の披露があり、奨学生は慎重に聞き入り、留学に胸を膨らせていた。豊島ガバナーエレクトは会場のテーブルを精力的に廻り、新奨学生と親しく懇談している光景が見られた。

続いて、新奨学生よりそれぞれの抱負と決意表明が述べられた。

・ロータリー財団の名に恥じないよう国際交流に貢献してきたい。



-財団学友会第19回総会



- ・ホームレスについてのボランティア活動があるので、派遣先でも同様の活動をしたい。
 - ・一年間は瞬く間に過ぎると思いますが、ホストRCの方々とは勿論、出来るだけ多くの人々と交流を持ちたい。
 - ・国際理解の促進に貢献するための第一歩として有意義にすごす。などが主な発言内容である。
- 最後に鈴木孝則財団副委員長の閉会のことばで締め括った。

2003～2004年度奨学生は下記派遣先リストの通り、留学が決定しましたので奨学生の皆さんにご声援下さい。

派遣決定リスト

●アカデミック (1年間)

横山 大	青山真帆	西浦麻美子
ストラップール第二大学	パリ第1大学	リヨン第2大学
フランス	フランス	フランス
言語学	政治学	西洋服飾史
足立 誠	恒川誠二	小池高弘
一宮	名古屋名南	蒲郡
竹内美尋	大橋司津子	
サセックス大学	ペンシルバニア大学	
イングランド	アメリカ	
メディア研究(コミュニケーション)	法学	
小池高弘	寺田 諭	
蒲郡	東知多	

●マルチイヤー (2年間)

鎌倉義士	安立憲司	武田光弘
ニューメキシコ大学	ミネソタ大学(院)	マサチューセッツ大学
アメリカ	アメリカ	フェリス学院
応用言語学(言語習得論)	農業・応用経済学	アメリカ
内田泰潤徳	斉藤捷昭	観光学部
一宮中央	名古屋みなど	加藤 厚
		名古屋昭和

尾崎文太

アンティル・ギアナ大学
フランス
仏語圏文学・文化・地域研究
佐藤矩明
豊橋北

氏 名
指 定 校
国 名
専 攻 分 野
顧問ロータリー
推薦RC

愛・地球博パートナーシップ事業

2005年日本国際博覧会「ロータリー館建設協賛チャリティコンサート」

日時／平成15年5月17日（土） 場所／愛知県芸術劇場コンサートホール



博覧会協会 豊田章一郎会長ご挨拶

コンサートホールで開催されました。

今回のコンサートは、2005年日本国際博覧会の開催にあわせ、愛知青少年公園地区の一角にロータリー館が建設されますが、その建設資金の一部の創出と「愛・地球博」のPRを主旨として開催されたものです。

コンサートに先立ち、2005国際博覧会の内藤明人委員長より主催者を代表して挨拶があり、また、博覧会協会の豊田章一郎会長より「愛・地球博」をアピールするお言葉をいただきました。

コンサートは、名古屋フィルハーモニー交響楽団をはじめ、名古屋市内のロータリークラブ会員とその家族を中心に新たに編成されたコールロータリーEXPO（混声合唱団）の手づくりコンサートなど盛りだくさんの内容で行われました。

名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートでは、指揮者に全国の交響楽団との共演やバレエ、ミュージカルなど舞台作品でも活躍し注目を集めている竹本泰蔵氏と 盛田和昭、中北智久を迎え、チャイコフスキーの「白鳥

国際ロータリー第2760地区2005国際博覧会が主催となり、愛知県、名古屋市の後援、財団法人2005年日本国際博覧会協会の連携協力、そして有力企業各社の協賛・協力を得て、「ロータリー館建設協賛チャリティコンサート」が、5月17日（土）、愛知県芸術劇場コ

の湖」より「情景」、「四羽の白鳥の踊り」、「チャルダッシュ」（竹本氏）、ベートーヴェン交響曲第5番「運命」第1楽章、ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界より」第1楽章他が演奏されました。

コールロータリーEXPO（混声合唱団）は、服部英一のコーディネイトにより170余名のメンバーで編成され、加藤典子さんの合唱指導で昨年の9月から長期にわたって猛練習を重ね、当日の晴れ舞台で見事な成果を披露することが出来ました。曲目は、源田俊一郎編曲「ふるさとの四季」、オペラのなかの合唱曲・ヴェルディ作曲「ナブッコ」、「トロヴァトーレ」、「アイダ」の曲が合唱されました。

「愛・地球博」盛上げを意図とした公式イメージソ

ング「I'LL BE YOUR LOVE」の曲では、名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏の下、ロータリー財団国際親善奨学生としてイタリアのミラノ音楽院に留学されたことのある神田彩さんのソロとコールロータリーEXPOの合唱で、魅力的なコンサートが実現できました。

また、特別ゲストに名古屋出身のヴァイオリニスト島田真千子さんを迎え、「タイスの瞑想曲」、「カルメン幻想曲」の2曲も披露されました。コンサートのフィナーレは、ステージと客席が一体となって、ロータリークラブの歌（「奉仕の理想」、「手に手つないで」の2曲）が大合唱され、会場は大いに盛り上がりしました。

なお、ロータリー館建設資金の一助となるチャリティ額300万円は、名古屋ロータリークラブ内のチャリティコンサート事務局より国際ロータリー第2760地区2005国際博覧会に寄贈されます。



ロータリー財団奨学生レポート..... NO.2

当地区からは18名の財団奨学生を海外に送り出しています。その親善大使の元気な活動を現地から生のレポートとしてお届けします。(2003年3～4月現在)

アメリカ留学が 実現するまで

貫井万里

留学先 アメリカ

1月3日午前11時、デトロイト・メトロポリタン空港に到着した時、念願のアメリカ留学が実現したことがまだ信じられないような思いでした。2年前の9月10日に指導教官候補のコロンビア大学の教授にお目にかかったものの、教授が2002—2003年度にコロンビア大学では授業をもたれていないことがわかりました。そしてその翌日は、9月11日。コロンビア大学からの帰りに地下鉄が突然、不通になっており、ホテルに戻ると、ニュースで飛行機がツインタワーに激突するシーンが流れていました。一瞬、何が起こったかわかりませんでした。それから数日間、バスも電車も飛行機も全て不通となり、まるで、ニューヨークという巨大な都市に閉じ込められたような気分でした。5日目に運良く、シカゴ行きの飛行機の席をとることができ、無事、ニューヨークを脱出し、日本へ帰国することができました。

帰国後、指定教育機関の変更を決心しましたが、私の研究テーマは、「イランの社会運動」と非常に特殊で、私の関心に合うクラスを開講している大学が非常に少なく、留学先を選ぶのは難航しました。しかも、テロ事件以降、中近東への不信感が高まっているアメリカで、自由に「イランの社会運動」について研究ができるのかと、非常に悩みました。しかし、顧問ロータリアンの根本憲生様を始め、名古屋錦ロータリークラブの方々が暖かく見守り、かつ励まして下さったために、最終的に11月にイースタン・ミシガン大学社会学部の修士課程に合格し、12月初旬にロータリー財団からも正式に指定校の変更を承認する手紙も頂きました。それからは、ビザの取得に、引越しにと目の回るほど忙しく過ごしているうちに出発当日となりました。

1月3日にはホスト・ロータリアンのパパドポロス氏が空港に迎えに来て下さっており、パパドポロス氏の車に乗って、空港を出て、一面に広がる雪原を見たとき初めて、アメリカにきたことを実感しました。50年ぶりの寒波に襲われたミシガンでは、冬の間、朝晩は零下20度近くになる寒さが続いていました。それにもかかわらず、粉雪舞う中、半袖姿の男子学生をキャンパスで目撃した時には非常に驚きました。しかし、先週から急に暖くなり、キャンパスでも女の子たちが

が一斉に華やかな春物の服を着て、お洒落を始めました。冬の間はジャージにダウンジャケットと、寒すぎでお洒落する余裕もないという感じでしたが…。

現在、私はイースタン・ミシガン大学社会学部の修士課程に所属していますが、授業の内容は非常に実践的で、予想以上に楽しいです。しかし、毎週、宿題が山のように出るので、ホームシックにかかる余裕ありません。また、こちらで知り合いになったクラスメートも先生方も寮の友人も非常にフレンドリーで、アメリカ生活に溶け込めるのかという出発前の心配は杞憂に終わりました。何よりも、大学院のクラスは社会人や様々なエスニック・バックグラウンドの学生が多く、授業で活発な議論が交わされる点が日本の大学院との大きな違いです。

また、ミシガン州は自動車産業との関連から、日本との交流が盛んで、イースタン・ミシガン大学にも日本語コースがあり、多くの学生が第2外国語として日本語を選択しています。そのため、図書館やカフェテリアなど、様々な場所でアメリカ人の学生たちが一生懸命漢字の練習をしている姿を見かけます。時々、日本語で話しかけられることもあり、他の国の人が自分の国、日本の言葉や文化を一生懸命、学んでいる姿を見るのはとてもうれしいことです。また、3月からミシガン州の様々なロータリー・クラブを訪問してスピーチをしておりますが、そこでも、何人か名古屋を訪問されたことがあるというロータリアンに御目にかかり、ミシガンと名古屋の絆の深さを実感致しました。

最後に、私を2002—03年度国際親善奨学生として選んで下さった第2760地区のロータリアンの皆様、そして、最後まで暖かく応援して下さった名古屋錦ロータリークラブの皆様、とりわけ、顧問ロータリアンの根本憲生様、足立恒一前名古屋錦ロータリークラブ会長、三浦俊彦現名古屋錦ロータリークラブ会長に深く感謝をしつつ、結びに変えたいと思います。

私の留学生活

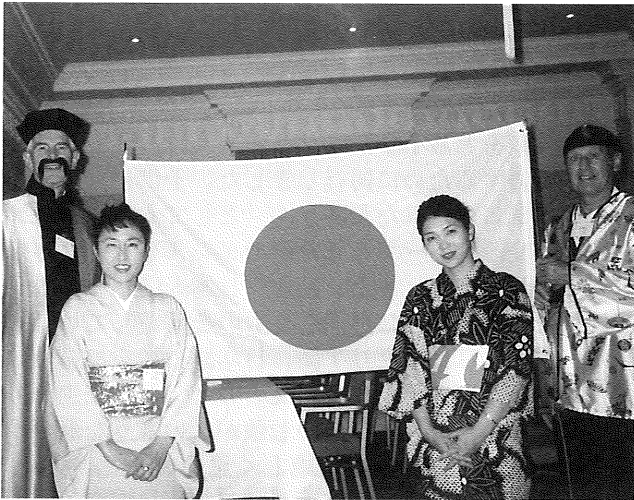
加藤明子

留学先 イギリス

名古屋を旅だってから、はや7ヶ月が過ぎようとしております。現在、私はコベントリー（イギリス中央部）のロータリークラブに属し、ウォーリック大学の

修士過程で、英国文化研究と英語教育を学んでおります。

コベントリーという街はかつて自動車産業で栄え、大戦で打撃を受けたという点で、名古屋の街と似ているところがあります。しかし、街を一步離れると、イギリスらしいのどかな風景が広がり、寮の周りには水鳥が生息し、リスや狐、はりねずみなども出没します。普段は、大学の授業やセミナーに参加し、課題やエッ



セイに追われるという毎日を過ごしています。大学の寮ということで、イターナショナルな学生が集まっているせいか、いろいろな国の人々の考え方や生活習慣を知るよい機会であると思います。

コベントリーは、ロータリーの活動が比較的盛んな地域で、多いときには週に4回ほどイベントに参加します。例会でのスピーチ（日本文化、名古屋の紹介）に始まり、簡単な着付や茶道のデモンストレーション、絞りの実演などもしました。また、身体障害者のスポーツ大会や卓球大会、パーティーなど多くのイベントにも参加しました。どれも思い出深いですが、その中でも特に印象に残っているのが卓球大会で、夜通し卓球をすることでチャリティーの資金を集めるというものでした。その夜は二つのロータリーのイベントが重なっていて（カジノ・イベント）、一つのイベントが終わった11時ごろに学校の体育館へ行き、ロータリアンの方たちと夜中の3時まで卓球をしました。

例会やイベントで個人的に仲良くなりますと、ホーム・パーティーや結婚式などにも誘っていただくようになりました。また、イギリスに来る前に教員をしていたということで、例会で日本の教育問題についてお話ししたところ、校長先生をしているロータリアンの方から、学校へ招待していただき、日本についてのお話もしました。いろいろなイベントに参加し多くの方たちと知り合いになることができたのは、貴重な体験だと思っています。

写真は、昨年10月にトーキー（イギリス南東部）で行われた地区大会の様子で、仮装のテーマが“Far East”でしたので、着物を着ました（本人左）。そのパーティーで興味深かったのは、日本がイギリスでど

のように表象されているのかということでした。あるグループの男性は忍者の衣裳で、女性の方は芸者の衣裳（かつらまで用意）で揃えていたのが印象に残っています。

全般的に私がイギリス人から得た印象は、意外に日本のことをよく知っているということでした。といいますのも、サッカーの試合を見に行っても、そのクラブのスポンサーが日本企業だったり、自動車を始め、家電や文房具にいたるまで日本製品がイギリス社会に浸透していました。また、文化面におきましても、空手を始めとする武道、漫画などにも人気があったように思います。そういう意味で、日本は地理的には遠いですが、生活面、文化面においてイギリスの生活に入りこんでいるような気がします。

学校生活から、ロータリーの活動まで、細かいことを話せば限がありません。最後に、このような貴重な留学の機会を与えて下さったロータリー財団に心より感謝いたします。

（「討論によって知識を深める」のがイギリスの伝統的スタイル）

古泉 隆
留学先 イギリス

イギリスのブライトン大学でメディアを利用した英語教育について勉強しています。ブライトンという町を紹介しますと、ロンドンから南に列車で約1時間行ったところにある海岸に面した町です。もともと小さな漁村だったこの町は、18世紀に上流階級の人々の保養地になり、その後、海水治療に訪れたジョージ4世によって離宮が建設され、現在ではリゾート地としてイギリス各地から人々が訪れています。大学はブライトンの町に3ヶ所に分かれてあるのですが、僕のキャンパスは一番のどかな場所にあり、野うさぎ、リスなどに遭遇できます。

キャンパス内にある寮に住んでいるのですが、日本



で「寮」というと狭くて居心地が悪いといったイメージがありますが、ここはそんなことはなく快適な生活を送っています。6人で一つのキッチンを共有していて、各部屋にはバストイレがあるほかインターネット接続できるようになっています。幸か不幸か、僕以外の人は女性で、その分キッチンはいつもきれいです。でもなぜか僕が一番料理上手だということになっています。2人がイギリス人で、そのほかアメリカ、ナイジェリア、スウェーデンからの留学生です。もちろん英語が共通語になっているのですが、多様な英語が聞けて興味深いですよ。

授業の方は、「討論によって知識を深める」のがイギリスの伝統的なスタイルだそうで、関係した書物を事前に読み、授業では討論が中心となることがほとんどです。クラスではまさに多様な英語が話され、韓国、中国、ギリシャ、トルコ、デンマークなどさまざまな地域からの留学生がいます。また、各国の英語教育事情を聞けるのもこのような環境にあるからだと感謝しています。パートタイムの学生や日々の勉強で忙しなかなかクラスで何かするという機会がないのですが、時には各国料理を持ち寄りパーティーなどもやります。また、「ビール好き」が自発的に集まってパブに繰り出すことも。ビール好きの僕としてはパブでの社交は何よりの息抜きで、おながが出てくるのではとの心配も。

ロータリークラブとの関わりですが、ストーリントンという地域がホストロータリークラブで、とくにホスト顧問ロータリアンの方には大変お世話になっており、クリスマスに招待していただくなど家族的な付き合いをしています。クラブでのスピーチはもとより、クラブの様々なイベントにも誘ってくださり、職業訪問といってクラブメンバーの仕事場を訪問するイベントで現地の高校の様子を見学したり、「ボンファイヤー(花火大会)」というチャリティー活動のお手伝いをしたり、年度末のダンスパーティーに参加したりと大変貴重な経験をさせてもらっています。実は、イベント後のパブでのビール談話がさらに楽しみなのです。パブとはパブリック・プレイスと元々は言われていたのだとイギリス人の友人が言っていたのですが、まさに社交の場であると実感しています。

（「アジアから来たお客さん」として 「他民族交流」という学校行事に参加）

宮林尚子

留学先 イタリア

私が現在留学しているイタリア北西部、ピエモンテ州の州都であるトリノはイタリアの代表的自動車メーカーであるFIAT社があることで知られています。また、2006年冬季オリンピック開催地ということで、現在急ピッチで都市計画が進められています。私のホス

トRCであるSUSA-VALSURA RCの例会でも「オリンピック開催に向けてRCはどのような役割が果たせるか」といったことが議題としてよく取り上げられています。

私は現在、キリスト教主体の女子寮（コレッジ）にて、イタリア人女性らと共に唯一の日本人（アジア人）として寝食を共にしています。ここは女子学生は勿論のこと、社会人も数多く住んでいます。また、この寮にはピアノ備付のサロンがあり、音楽を勉強している私としては大変助かっています。

昨年12月に学校の教員をしている寮の友人の要請で、彼女が教鞭をとる小学校へ「多民族交流」という学校行事に協力するために同行しました。子供達は私のことを“アジアから来たお客さん”としてもてなすために、国際交流をテーマとした歌やダンスを準備し、披露してくれました。また、私が“日本人”ということで俳句をイタリア語に翻訳したものを朗読してくれました。お礼に私はイタリア語、日本語の歌を披露させて頂きましたが、子供達は勿論のこと父兄や先生方も大変喜んでいただき、自分の勉強がこのような形で役に立ったということを大変嬉しく思いました。更に、本来ならばこの行事は今回限りで終わるはずだったのですが、先生方が想像していた以上の成功により、帰国前に再度訪問することが決まりました。



普段の寮生活については、最初のころは自分の考えを皆に伝えることが出来ないのと同時に、彼女達の思考が理解できず、精神的にかなり不安定な状態だったように思います。

勿論今現在でも考えることによる意見の行き違いや、私の語学の表現力不足によりなかなか理解してもらえないこともあります。当初に比べて、かなり冷静に落ち着いて対処できるようになりました。また、このように自分が難しい立場に置かれることで、日本人である私を本当に心から理解している友人を見つけることが出来ました。

私のこのような留学生活も、残すところ5ヶ月となりました。誰もが出来るというわけではないことを経

験できて、自分は本当に幸せだと実感しています。財団奨学生として、4月下旬の復活祭を前にホストRC例会でのスピーチを控えています。ここイタリアで自分が体験したことや、その体験に伴う自分の考えを表現すべく、現在スピーチ原稿準備に取り掛かっているところです。（'03.03.09現在）

（メキシコの貧しい地域に家を建てる ボランティアに参加）

鵜飼 弥生
留学先 アメリカ

ロータリーの皆様こんにちは、わたしは、現在、University of Illinois at Urbana-Champaign（イリノイ大学アーバナシャンペイン）の経済学部で、経済を勉強しています。渡米してから早いもので、1年半たちました。

今期は最後の学期で、経済学部の科目を2つとっています。（国際経済理論と、ラテンアメリカ経済の発展、ちなみに先学期は経済科目と、ファイナンスも勉強していました。コーポレート・ファイナンスとインベストメント、会計学の知識に欠けていたので、コーポレート・ファイナンスはかなりつらかったです。）

国際経済の教授は、エール大学からきた、韓国人の教授で、とてもわかりやすい授業をされます。国際経済は日本でも勉強し、国際貿易論は、こちらでもとったのですが、この授業は全般をわかりやすく、カバーしています。もうひとつの、ラテンアメリカ経済の教授は、話はとても面白いのですが、授業にスライドを使い、次から次へと、話しまくるので、ノートをとるのが恐ろしく大変です。はじめは、スライドを書き写して、満足していたのですが、アメリカ人のクラスメートと話していたら、「極力リーディングはやりたくないの、なるべく教授のいっていることを全部書くようにしている。」と言われ、なるほど、と思い、ものすごい勢いで講義中ノートを取っています。その結果、多少アメリカ人の友達にテストの準備で手伝ってもらいましたが（テストの想定問題の模範解答を一緒につくった。）、このノートのおかげで、かなりいい成績がとれました。この教授は、ドイツ系アメリカ人で、ハーバード大学、5ヶ国語を話されるとのこと、講義はとても面白いです。

先週、春休みで、アメリカ人の友達に誘われて、メキシコの貧しい地域に家をたてるボランティアに1週間いってきました。日本やアメリカとはまったく違うメキシコの様子はとても興味深かったです。私たちの行ったところは、水道、電気、ガス、といったインフラはまったくなく、貧しいため、子供も学校に行かず、本当に写真でみるような、発展途上国の貧しい地域でした。その地域は貧しいとはいえ、車で30分ほどその

地域から走れば、インフラの整った、町がちゃんとあるのですが。一度、旅行でインドネシアに行ったことがあります。そのときも全般的な貧しさに多少驚いたのですが、今回は貧しい地域に驚きつつも、ボランティアで彼らの地域に家を建て、多少地域の方ともコミュニケーションをとることもできたので、いい経験になりました。

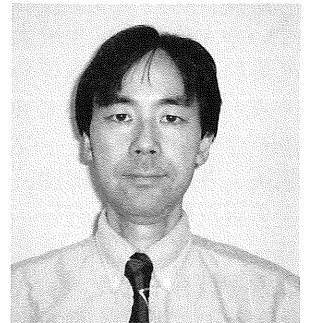
最近、先延ばしにしてきた、ペーパーの締め切りが近づいてきたので、メキシコのことを書こうと思い、いろいろな記事や、本を読んでいます。昨日一日遊んでしまったので、今日は勉強しなくてはいけません。

先日、学内のstudent Unionというところの地下の食べ物屋が集まっているところに、テイクアウトのおすし屋さんができました。味は、そこそこですが、今までは、キャンパスでおすしといえば、唯一、アジア料理屋さんの怪しげな（しかも高い）おすししかなかったの、発見した週はうれしくて2日続けて食べてしました。（カリフォルニアロール 4.5ドル、ツナロール 5ドル）以上、近況です。ぜひ一度いらしてください。

（自分の言い分を通したい時こそ 相手の価値観や考え方を理解する）

伊原 誠
留学先 アメリカ

昨秋からカーネギーメロン大学のビジネススクールで経営学を学んでいます。こちらでは、将来ビジネス分野での活躍を目指すクラスメート達と充実した学生生活を送っています。



ビジネススクールの教育内容は学問というより実用性を重んじたものが多くあります。所謂ケーススタディの他に、例えば取締役会での社外取締役達との応酬、労働組合委員長との給与交渉などを真剣勝負で体験します。ここで登場する社外取締役、組合委員長は本物の方々です。リストラで従業員を解雇する時の従業員との個別面接の練習というものまであります。

現地の殆どの学生は将来CEOやCFOになることをキャリアゴールにしています。この点、昇進していく日本の会社員とは、初めから気構えに違いがあります。また卒業後直ちに起業する予定の者も少なくありません。先日、ビジネスプランを作るグループ課題が与えられた時に私のグループのメンバーが持ち込んできた計画書には、表紙に彼の名前がCEOの肩書きで書いてありました。この計画書はそのまま使うつもりです。

この国ではビジネスに意欲のある者は、大企業のトップを目指すか自分で起業するかのどちらかですが、そういう志を持ったMBAが著名スクールだけで毎年1万人以上卒業していきますので、経営者の層の厚さに関しては、日本はとてもかなわないと感じます。

このような仲間達に囲まれて苦勞していることは、彼らとのコミュニケーションです。課題は基本的にグループで行っていますが、意見が衝突したり、話がこじれたりすることが頻繁に起きます。何事も理屈っぽく物事を考えるアメリカ人達が相手で、しかもめいめい自己主張が強いので、こちらの言い分を通すのは非常に骨が折れます。妥協してしまっただけでここで学んでいる意味がありませんのでできる限りくらいついてみるものの、まだかなり歩が悪いのが正直なところです。

そんな彼らとの議論や摩擦の中から学んで来たことの一つは、こちらの言い分を通したい時こそ、むしろ相手の言い分やその奥にある価値観や考え方を理解することがいちばんのコツ、ということです。相手の意

見を深く掘り下げていく中から、自分の意見と一致している所を見つけて話をまとめたり、相手の言い分の根拠に誤りを見つけたり、あるいは新たな解決の方向を見出せたりすることがあります。これは相手がアメリカ人でなくとも必要なことかもしれません。ともかく異国での体験には学ぶための材料がたくさんあります。

ここにはアメリカ人だけでなく世界52カ国から集まった将来の活躍が期待される仲間達があります。スクールの厳しい環境で苦勞を共にして築いたクラスメート達との交友関係を、将来ビジネスを通じて国際親善、相互理解にぜひ役立てていきたいと考えています。

ロータリーの親善活動は、最近年齢制限を免除してローターアクトに入れていただいたので地元との交流の機会が増えそうです。こちらのロータリークラブはどこも少人数でアットホームなクラブです。和やかな例会の雰囲気の中でスピーチを楽しませていただいています。

最終ガバナー補佐会議を終えて

地区幹事 伊藤 宏

新緑目映い5月9日(金)、ガバナー事務所を開設している大須観音宝生院大会議室に於いて、2002-03年度最終のガバナー補佐会議が開催されました。

ガバナー、8分区のガバナー補佐並びに補佐幹事、ガバナー事務所スタッフのご参加を得て、ガバナー事務所より地区内R財団、米山への寄与率、国際博委員会の近況報告等を行い、各ガバナー補佐(1分区のみ補佐の奥様急病のため補佐幹事が代行)から分区活動報告を戴きました。

何れのご報告も厳しい経済状況を反映し、会員増強に苦戦しているクラブの多いこと、現実的な問題として、事務局経費節減の具体策や少人数クラブが運営上、クラブの合併はあり得るのか等という意見が有ったことも報告されました。

また、少人数クラブにあっては一人の会員が幾つもの委員会委員を兼任しロータリー活動が大きな負担になっているので委員会数を減らすことが出来ないか、また、歴史の有るクラブの中には、年輩会員と若い会員との間に世代のギャップが有り、この調整に苦慮していると



の報告や、歴史の重みを感じるクラブ運営にロータリーの根幹を感じ、ロータリーの基本に帰るべきとのこと意見、新進気鋭の活発な活動を展開するクラブ等多岐に亘って報告がなされました。

地区委員会など、殆どが名古屋市内で開催されるが、地区内のクラブによっては地理的要因で参加することが大きな負担になるので、時々各分区内で開催して欲しいとのこと意見も報告されました。

分区内会長幹事会に付いては、開催頻度の高い分区は毎月開催されていて、分区内の情報伝達が極めてスムーズに行われているとの報告が有り、他にも隔月に会長幹事会を開催している分区も報告されました。

また、次年度は開催されない分区もあるIMに関しては、これが最後のIMかも知れないとの思いを込めたレベルの高い企画、内容で何れのIMも高い評価を得ました。

本年度岡部ガバナーをお支えいただいた各ガバナー補佐、同補佐幹事の皆様に衷心より御礼申し上げます。





*記念になる例会

西尾ロータリーが創立して、45周年を迎えるため、その記念としての行事の担当を会長幹事より依頼されてより、以来この行事についての意義を考えてみました。周年行事のあり方については、他のクラブの例を参考に、西尾クラブの独自性を考え、その方向をクラブ運営の流れの一時点と、位置づける事にしました

西尾市は今年市制50周年を迎え、数多くの記念行事に各種団体が参加し、挙行される時期に、西尾ロータリーが45周年と言っても、あまり一般市民の心に残る行事にならないと思うのです。

国際ロータリーのテーマでもあります（慈愛の種を播きましょう）との方針を基本に、来る創立50周

西尾ロータリークラブ 創立45周年記念

日時／平成15年5月10日（土）

場所／西尾文化会館小ホール

西尾ロータリークラブ 創立45周年記念例会担当委員長 山崎周彌



年の通過点として45周年を位置付け、心に残る記念例会とすることにしました。

協力を頂いた記念例会の委員の皆様のご尽力で、来

賓の皆様のご臨席と、スポンサークラブの蒲郡クラブおよび西三河近隣クラブのかたがたにご出席を頂き、喜びのその上、岡部ガバナーを始め皆様より、心に残るお言葉を賜り、大変印象深い例会が出来ました。

例会後のコンサートも大好評で、市民の皆さんにも喜んで頂きました。

会員が心にのこる例会、つまり何時になっても頭のどこかで鮮明な記憶であるための努力が、各委員の配慮で出来ました話題として、この例会が何時までも出来ます事を喜びとしております。

最後にもう一度、慈愛の種を播きましょう。

第2回 国際奉仕委員長会議

日時／平成15年4月24日（木） 場所／名古屋マリオットアソシアホテル

地区国際奉仕委員会 委員長 須賀 康夫

会議は地区国際奉仕委員長、須賀康夫の開会挨拶に始まり、岡部快圓ガバナーの挨拶、そして伊藤宏地区幹事の挨拶のあと、議題に入った。

青少年交換委員会からは大谷和雄委員長より、今年度の報告と次年度へのお願いを、また世界社会奉仕委員会からは榊原正治委員長が、この一年を通じて各クラブの活動状況について、また国際奉仕委員会からは須賀康夫委員長が現在の海外ロータリークラブとの姉妹・友好クラブ締結についての報告

とお願いがあった。

その後、引き続き地区国際奉仕委員会韓国、慶熙大学外来教授、須賀康夫より『韓国を知って25年』というテーマの卓話があった。

続いて夕食会が開催され、挨拶に地区副幹事が、そして乾杯には原田慶三郎ガバナー補佐が担当された。

最後に岡部快圓ガバナーより謝辞をいただき、定刻に終了した。

大変有意義な国際奉仕委員長会議であった。



国際ロータリー2760地区

2002～03年度

第2回

地区新世代委員長会議・報告

新世代のための
教育奉仕プロジェクト

地区新世代委員会 委員長 保浦文夫

日 時 2003年5月18日(日) AM8:00～9:45

場 所 愛知県労働者研修センター・講堂
(第11回ライラセミナー会場)

登録者 82名

岡部ガバナー点鐘、挨拶、ライラセミナーの協力のお礼、新しいロータリー活動プログラム「新世代のための教育奉仕プロジェクト」の提案、趣旨と経緯を、各クラブ、ロータリアンの理解、協力を目的に、資料配布し詳細に説明。



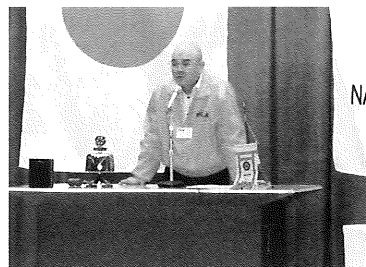
保浦文夫

藤井

岡部

「新世代活動参考資料-3」の発刊

地区新世代関連委員会・各ロータリークラブ・IAC・RAC等の事業報告、「新世代のための教育奉仕プログラム」の趣旨と提案に至る経過など掲載、委員長会議の資料とし配布。



全体会議

「新世代のための教育奉仕プロジェクトの検証」テーマに、ロータリアン4名をパネラーに、コメンテーターに岡部ガバナー、藤井次期地区新世代委員長、会場参加者を含め、保浦新世代委員長の進行で熱のこもった意見交換がされた。

ライラセミナーの風間講師からも知識だけでは駄目、行動が必要との発言。

凶悪な青少年犯罪、学級崩壊等教育の荒廃をロータリアンは、嘆いたり批判知るだけでなく、学校教育に直接関わり行動することである。ロータリアンが学校教育に関する最小限で、最も有効な活動で、地区委員会や各ロータリークラブがロータリアンの奉仕活動を補完する“ロータリーの社会奉仕の理念”に基づくプログラムと、保浦委員長は結んだ。

岡部ガバナー講評

現在の若者は結果だけしか見ていない。物が出来る過程を知らない。その過程を見ることにより、その価値を知り、物事の本質が見えてくる。そこを教えていく必要がある。と結ばれ、参加の皆さんはこのプログラムを理解し各クラブで十分な協議頂きたいと要請。

第2760地区

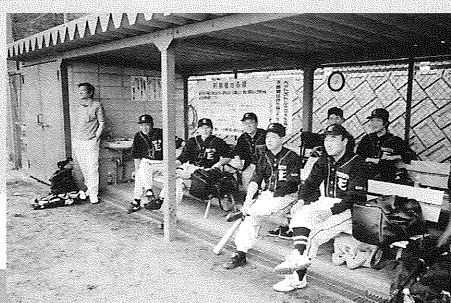
春の野球大会開催!!

日時 5月10日(土) 午前9:00～午後5:00

場所 愛知県トラック協会グラウンド

愛知県加茂郡三好町大字福谷字西ノ洞16番地

TEL (05613) 6-5501

第1試合 AM11:00集合 AM11:30試合開始 PM1:00終了
豊山城北RC 2×7 豊田東RC第2試合 PM1:00集合 PM1:30試合開始 PM3:00終了
瀬戸北RC 6×13 豊田西RC第3試合 PM3:00集合 PM3:30試合開始 PM5:00終了
名古屋中RC 0×9 豊田中RC

新しい仲間

富田 真規（常滑） 中西 克之（名古屋栄） 油田 弘佑（名古屋千種）
寺島 治（名古屋栄） 牧 一美（名古屋栄） 二俣 景一（名古屋西南）
上坂 寛文（名古屋栄） 大谷 康夫（豊田） 後藤 真（あま）
松岡 英二（名古屋栄） 北川 剛一（名古屋大須）

米山特別寄付報告

■3月分

クラブ名	クラブ収入金額	個人収入金額	法人収入金額	合 計	件数
一 宮 北	500,000			500,000	1
豊山一城北		330,000		330,000	7
愛知長久手	105,400			105,400	1
名 古 屋		300,000		300,000	1
名 古 屋 中	119,000			119,000	1
名古屋和合		900,000		900,000	30
豊 橋		40,000		40,000	2
蒲 郡		90,000		90,000	2
豊 橋 北	4,000	400,000		404,000	24
新 城		100,000		100,000	1
岡 崎		20,000		20,000	2
岡 崎 南		60,000		60,000	2
岡 崎 東	10,057			10,057	1
岡崎城南	100,000	90,000		190,000	4
合 計	838,457	2,330,000	0	3,168,457	79

■4月分

クラブ名	クラブ収入金額	個人収入金額	法人収入金額	合 計	件数
常 滑		450,000		450,000	5
東 知 多	112,000	430,000		542,000	7
半 田 南		80,000		80,000	4
一 宮 中 央	450,000			450,000	1
江 南	900,000			900,000	1
春 日 井		1,050,000		1,050,000	7
尾 張 旭	225,000			225,000	1
名 古 屋 南			50,000	50,000	1
名古屋みなと		50,000		50,000	1
名古屋名駅	900,000			900,000	1
名 古 屋 東		900,000		900,000	7
名古屋守山	137,800			137,800	1
名古屋東山		480,000		480,000	16
蒲 郡		60,000		60,000	2
新 城		300,000		300,000	1
岡 崎		60,000		60,000	6
岡 崎 南		20,000		20,000	2
岡 崎 東				8966	1
西尾KIRARA	8966	270,000		270,000	9
合 計	2,733,766	4,150,000	50,000	6,933,766	74

ポール・ハリス・フェロー

■3月分

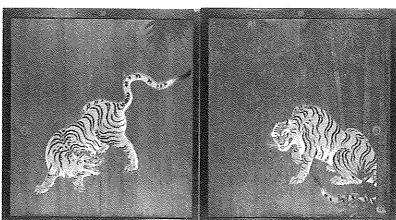
高木 和男（春日井） 酒井 義充（名古屋東） 今村 孝治（名古屋和合）
杉本 義安（岡崎南） 伊藤 一郎（常滑） 井上 義春（常滑） 伊藤 実朗（常滑）
角田 濱照（常滑） 松井 由次（豊橋北） 加藤 連治（豊田東） 加藤 千尋（豊田東）

■4月分

鈴木 良彰（一宮北） 服部 智謙（小牧） 野田 正治（瀬戸） 横山 繁樹（瀬戸）

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

宮内潤一郎 様（名古屋西南） 水野 敏明 様（尾張中央）
伊藤 壽 様（名古屋和合） 水野 正運 様（尾張旭）



表紙を語る

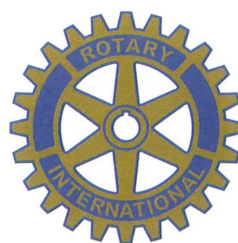
本丸御殿玄関杉戸絵

（重要文化財）江戸時代
名古屋市中区 名古屋城管理事務所蔵

名古屋城は徳川家康が命令して建てた城で、本丸には、天守閣と貴賓を迎える御殿がありました。「尾張名古屋は城でもつ」とは賞賛された名城でしたが、両方とも昭和20年の空襲で焼失しました。天守閣は再建されましたが、本丸御殿はまだなので、再建の声があがっています。

御殿の中は金箔貼りの襖や壁に狩野派の画家によって雄大な絵が描かれました。写真は御殿の玄関を飾った杉戸絵で、猛々しい虎の姿が描かれています。虎は武の象徴として、城の内部に描かれることが多かったのです。空襲を警戒して、この絵を含め御殿の襖絵は隅櫓に疎開していたので、焼失を免れました。

（名古屋市博物館 学芸員 鳥居和之）



ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760

国際ロータリー第2760地区
ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内
TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023
URL : <http://www.rotary2760.org>
E-mail : governor02-03@rotary2760.org
